

軍事機密

別冊第四

燃料、彈藥集積要領

昭和十七年十二月一日  
第五飛行師團司令部

1303

一、超樂燃料ノ敵ノ空中攻撃ニ對シ之ヲ防護シ止ムヲ得サル場合ニ於テモ被害ヲ最少限ニ止ムト共ニ謀略的災害ヲ防遏スル如ク集積スルモトス之ガ為分散配置ト防護施設ノ徹底 圖ルモノトス

二、集積要領ハ飛行場周邊ノ地形地物及交通網ノ狀況飛行場附近設備特ニ飛行機繫留位置ノ關係ヲ顧慮シ之ヲ定ムルモ一般要領左ノ如シ

イ、飛行場ニ集積スル數量ハ集積基準量ノ五分ノ下ニ殘餘ノ五分ノ四ハ飛行場ヨリ遠隔セル位置(少クモ四料ヲ隔ツ)ニ集積ス

ロ、集積位置ハ成ルベク天然物ヲ利用シ止ムヲ得ザレバ人工的遮蔽ヲ用ヒ絶對ニ空中ヨリ視察シ得ザラシム

ハ、土倉、土壘、建物等ヲ利用シ又ハ之等ヲ構築スルフトニ依リ集積品ヲ防護ス

特ニ防湿ニ注意スルモトス

ニ、平地ニ於ケル露天集積ニ在リテハ各集積位置ノ巨離間隔

ハ集積量ニ依リ定セスト雖モ概ネ一〇米止ムヲ得サルモ七〇米

(側壁間隔)以上ヲ離隔セシムトス

ホ、一個所集積量ハ成ルベク少キヲ以テ可トスルモ最大限ノ標準左

ノ如シ

一、揮發油

（飛行場附近ノモハ五〇本  
飛行場ヨリ離隔セルモハ五〇  
）一五〇本

二、滑油

揮發油ニ同シ

三、彈藥

爆彈五〇發 絞ニテ約二〇〇發

三、細部ニ関スル事項左ノ如シ

別冊「作戦用燃料、彈藥格納要領」（既ニ配布済）